

一般社団法人口カップジュニア・ジャパン

2019年度第4回理事会議事録

1. 日 時 : 2019年9月29日（日）13:00～16:00

2. 場 所 : 大阪市北区豊崎3-20-1 インターグループビル6階 会議室

3. 出席者

(1) 本人出席者 7名

大橋健、水野勝教、今井俊二、島谷太、森重智年、松山森仁、小山航太

(2) 委任状提出者 4名

松原仁、中島晃芳、野村泰朗、田中宏明（監事）

(3) 理事以外出席者 3名

前田正久（事務局長）、浅沼まり（事務局）、休場万喜（事務局）

4. 議 事

1. 2019シドニーワールド大会報告
2. ジャパンオープン2020和歌山大会について
 - ・競技運営指針について
 - ・電池ルール報告
3. RCAP2019モスクワ大会について
4. 2021年以降の日本大会開催地候補選定について
5. 議事録署名人の選定
6. その他

5. 資 料

- 資料1 開催地における電池対策について
資料2-1 RCJJ年間スケジュール(案)
資料2-2 競技運営指針について
資料3 ロボット用バッテリー使用に関する方針
資料4 ロボカップジャパンオープン提案書
資料5 NL複数回参加について

6. 議事概要

(1) 議長の選出

①大橋代表理事が開会を宣言し、本総会は、定款第18条の規定を満足しており、成立していることを報告した。

(2) 2019シドニーワールド大会報告

①大橋代表理事より、2019世界大会について報告がなされた。日本からは8チームが参加し、レスキューシミュレーションのインディビジュアル部門で優勝したチームを始め、6チームが表彰や特別賞を受賞したことが報告された。

②事務局より、世界大会に出場した8チーム中、旅費補助の申請があった5チーム10名に対して補助金を給付したことが報告された。

(3) ジャパンオープン2020和歌山大会について

①競技運営指針について、資料2-2に基づき各リーグの担当理事より報告がなされた。森重理事より、共通ルールの変更点について報告がなされた。国際ルール2020において下限年齢が13歳とされたため、日本のWLでもこれに準じ、世界大会への推薦年齢は13歳以上とする。チーム人数の上限も国際ルールに準じ、ジャパンオープンWLはOnStageは上限5名、それ以外は上限4名とすることになった。NLの下限年齢、上限人数に変更がないことが確認された。

②松山理事より、大会時のスタッフ不足を解消するため、全リーグにおいてメンターのスタッフ登録を義務化したい旨、提案がなされた。理事会として問題はなく各リーグ内で検討することになった。

③小山理事より、OnStageにおけるビデオ審査についての報告がなされた。技術委員の中でも意見は分かれるが、ビデオ審査を導入することで技術的な条件を上げ、参加のハードルを上げるのは好ましくないと考えており、ビデオ審査は不要という意見があがっている。これに対し、水野専

務理事より、ビデオ審査であれば、決まった審査員が統一した基準で審査をし、参加者は書面によるフィードバックがもらえるという利点もある、との意見があった。ブロック大会で1チームの参加であっても審査され、採点をした上でブロックからジャパンオープンに推薦できると判断された場合には、ビデオ審査の必要は無いという認識で一致した。ビデオ審査はあくまで、競技し採点することが難しい場合(ブロック大会が実施されない場合、近隣ブロックでの受け入れが難しい場合)の措置として考え、OnStageの技術委員会に対し、再考を促すこととした。

④小山理事より、WLのOnStageについて、前大会ではエントリー直前にプレリミナリーかアドバンストどちらに参加するか選択してもらったため、アドバンストの参加者が1チームという結果となった。2020和歌山大会でのサブリーグへの振分けは、技術委員内で検討することになった。

⑤大橋代表理事より、高校生は積極的にWLにチャレンジし、世界大会を目指して欲しい。特に2020年は世界大会だけでなくRCAP愛知大会への推薦枠もWLから行うため、高校生はWLへの出場を推奨することになった。

⑥森重理事より、変更点をまとめ、10月中旬頃には初版の競技運営指針をリリースできるよう、修正することになった。

(4) RCJJ年間スケジュールについて

森重理事より資料2-1に基づき、2020年和歌山大会までのスケジュールの確認がなされ、推薦枠の配分を早めに行えるように、ノード、ブロック大会の情報を収集することになった。

(5) 電池ルール報告

①松山理事より、資料3に基づき、バッテリー使用に関する方針の説明がなされ、承認がなされた。技術委員会で了承を得た後、リチウム電池を使用するチームは、ノード大会から同意書と写真の提出を義務付けることが、決定した。また、参加者、メンター、保護者に向けてリチウム電池の取り扱い方法等について、資料を作成し啓蒙活動を行う必要がある、との確認がなされた。

②ジャパンオープンにおける電池対策について、資料1に基づき議論がなされた。和歌山市には、充電場所の確保、消火器、充電を行うラックの製作費を負担してもらうことを要望として出すこととした。

(6) RCAP2019モスクワ大会について

大橋代表理事より、会場の変更や参加チームが集まらない等の問題がある旨、説明があった。モスクワ大会においては、安全上の問題からRCJJからはチームを推薦しないことを再度確認した。

(7) 2021年以降の日本大会開催地候補選定について

大橋代表理事より、資料4に基づき、立候補地2都市の特徴等、説明がなされた。議論の結果、第1候補を決定し、先方と予算等の交渉をしたのち、正式に開催地を決定することで承認された。

(8) その他

①事務局より、資料5に基づき、2019年度の競技運営指針に基づき2020年度のジャパンオープンに、13歳のNLエントリーを求める問合せがあった旨、説明がなされた。2019年度の競技運営指針には、参考として「2020世界大会の最低年齢は14歳としている」と表記されているが、国際ルールの見直しが行われ、2020年の世界大会では最低年齢は13歳以上に据え置かれた。議論の結果、現在作成中の競技運営指針に準じ、特例を認めることはできないことを確認し、質問者へ回答することになった。

②水野専務理事より、展示会やパンフレット作成等の広報活動のための予算枠の増額を来期の予算に反映してはどうか、との提案がなされた。島谷理事より、次回予算で検討する旨、回答がなされた。

③次回理事会は、総会と同日開催とし、令和2年2月29日(土)または3月1日(日)のいずれかで調整し、開催することとした。

(9) 議事録署名人の選任

本日の議事録署名人として、松山森仁氏、及び小山航太氏にお願いすることになった。

以上、この議事録が正確であることを証します。

令和元年年9月29日

議長 大橋 健
議事録署名人 松山 森仁

